



第13回清瀬ひまわりフェスティバル

清瀬地域支部活動の活性化に向けて

支部長 永代 達三（昭和48政経）

三年間続いたコロナウイルスの影響で校友会活動はおおきな制限を受け、昨年の総会は郵送による書面審議となりました。事業計画等、対面を伴う行事は中止または、Zoom等を活用し行われることとなりました。

今年にはコロナウイルスによる感染が落ち着き、「定時総会」は通常どおり実施することが出来、久しぶりに直接会員同士が会い話し合い親睦を図る事が出来ました。今後はコロナ以前の活動を目指し、より一層、校友会活動の充実を図りたいと考えています。

地域支部活動の活性化には新たな会員の参加が必要です。最近の卒業生の三割以上が女性です。残念ながら我が支部では女性会員の参加が極めて少なく、女性の参加が強く求められます。また、男性会員も高齢化が進んでいます。若手の現役の方はなかなか時間的な制約もあり校友会活動に参加しづらいと思いますが、是非参加していただけるよう粘り強く勧誘活動を進めていきたいと考えています。

会員として参加していただくには、まずは地域支部活動に興味を持っていただく必要があります。「懇談会」「紫紺句会」など地域支部活動を通じて魅力ある会となるよう清瀬地域支部一丸となって努力していく所存です。

このような厳しい社会環境の元ではありますが、「会員相互の親睦」「地域貢献」「母校賛助」の精神を柱として清瀬地域支部の運営に尽力したいと考えております。

そのためには会員皆様の暖かいご支援、ご協力をお願いする次第です。

## 第十二回総会を終えて

幹事長 清水 計明 (昭53商)

昨年は、コロナ禍で書面総会を余儀なくされていましたが、本年五月二十八日アミュー六階講座室において第十二回定時総会を四年ぶりに対面で開催することが出来ました。

永代支部長が病欠欠席の中、司会は山岡氏、議長は中村氏、議事の記録係は粕川氏で行われました。

令和四年度事業報告については、十項目の計画を立て七項目が実施され、令和四年度決算報告と合わせて、出席者全員の挙手により承認されました。

令和五年度事業計画(案)及び令和五年度予算(案)も出席者の賛成多数を持って承認されました。活動計画の中で、校友会員の拡大と維持、女性会員の拡充を喫緊の課題として取り組んで参りたいと考えております。

その後、居酒屋「はなの舞」で懇親会が開催され、大いに盛り上がり親交を深めました。



4年ぶりの総会 皆さん元気です!

## 令和五年度の事業活動について

清水 計明 (昭53商)

コロナ禍前の社会生活環境に戻りつつある今年度は、気持ちも新たに地域密着型校友会を目標に活動して参ります。

「紫紺句会」昨年から新たに発足した「篆刻教室」健康増進を兼ねた「東京湾クルーズ」「多摩湖ウォーキング」などのイベントをはじめ、情報共有のツールとして「清瀬地域支部ホームページ」のより迅速かつ効果的な活用をしていきます。清瀬の自然を生かしたイベントとしては、「金山公園野鳥観察会」「台田公園観桜会」「大林組技術研究所キンラン・ギンラン見学会」など恵まれた自然を満喫していきたいと考えております。

一方、母校の各キャンパスの充実度は目を見張るものがありますので、見学会を検討しております。先ずは駿河台キャンパス周辺の紫紺館や阿久悠記念館等とキャンパスでの昼食会を考えております。また、和泉キャンパス、中野キャンパス、さらには生田キャンパスの各方面にも今後足を延ばしたいと考えております。

本年は硬式野球部が秋季のリーグ戦に優勝すると四季連続優勝という偉業に王手がかかっています。是非、秋季リーグ戦(九月九日～十月十日)を応援して参りましょう。ラグビー部は今年も恒例の明早戦(十二月三日)応援観戦が企画されていますので、期待ください。

また、昭和二十四年の総合優勝から久しく優勝の二字が遠い「箱根駅伝」も楽しみです。今年は予選会(十月十四日)スタートですが、活躍を期待したいものです。母校の応援、イベント参加も健康があつての物です。皆様方の益々の活躍とご健康を祈念しております。



駿河台キャンパス



和泉キャンパス



生田キャンパス



中野キャンパス

## 第二十回多摩支部総会に参加して

粕川 偉三男 (昭48政経)

連日の猛暑が始まる直前の七月十七日に八王子京王プラザホテルに二百二十名を超える校友・ご来賓の参加により多摩支部設立二十周年総会・祝賀会が開催されました。清瀬からは六名が参加し、他地域支部との旧交を温めました。柳谷理事長からは「大学の現状と展望」の説明があり、母校の発展する姿を確認することが出来ました。北野校友会会長の祝辞、父母会会長の祝辞と続き総会議事に進み、新執行部が承認されました。

引き続き開催された記念祝賀会では「優れた地域貢献活動表彰」があり、清瀬から丸山隆氏(昭40経営)が名誉の表彰を受けられました(当日丸山様はご都合により欠席)。多摩支部としては個人表彰三名の栄誉でした。

テーブルは東久留米の皆様と相席で、趣向を凝らした抽選会が開催されて盛会のうちに閉会しました。

令和五年に校友会に参加することになりました。宜しくお願いたします。

私は昭和二十二年戦後の生まれです。ちょうど学生運動華やかかりし時代で、駿河台校舎に移って二年間は授業も滞りがち、大学卒というよりも美術研究会卒業といった状態でした。

美研の部室は旧記念館の脇の迷路の奥、日も当たらないプレハブでした。そこが最初の溜り場で、最近の学生



杉山さん

校友会に入会して

大学の思い出

杉山 陽一(昭43 経営)



柳谷理事長挨拶



表彰された丸山さん



清瀬からは六名参加



代理受賞の永代支部長



さぼうる



レモン画翠



アミ (2015.10 閉店)



ミロンガ (2022.12 移転)

は学年単位で人間関係があるようなのですが我々の時代は先輩後輩よく遊んでいました。

次の溜り場は「アミ」という喫茶店で、よくスバゲッテイのミートソースを食べました。喫茶店は他に神保町の「さぼうる」タンゴの「ミロンガ」などもよく行きました。神保町の古本街では本を買った記憶はありません。「人生劇場」というパチンコ屋通いをしていた先輩もいました。「金ペン堂」という万年筆屋で小遣をはたいて買った万年筆は今でも我家にあります。在学中は靖国神社にはいきませんでした。

第三の溜り場は「グリーン」という雀荘で、随分そこで時間を潰しました。

ニコライ堂は懐かしいです。「栃木屋」というラーメン店のタンメンと餃子も「ジロー」というファミリールレストランのはしりのような店もお気に入りでした。「レモン」はお洒落な画材屋で、よく店内を徘徊しました。当時中目黒に住んでいて、通学は地下鉄丸の内線を利用していました。それぞれ懐かしい思い出です。

校友訪問 ③

水再生センター「夏祭り 2023」

柏川 偉三男(昭48 政経)



福本さん

災害級の猛暑日が続く中「水再生センターの夏祭り」にボランティアとして参加されている福本徳昭さん(昭54工)を中村さん、穴田さんの三人で訪問しました。当日は久しぶりの曇り空で熱中症にならずに済みました(その後豪雨)。福本さんが担当している「どんぐり工作」を体験した後、普段めったに見ることの出来ないセンター内を見学させていただきました。多摩地域一部の雨水汚水処理されているとの事でした。

福本さんは「清瀬の自然を守る会」「清瀬市文化協会」「清瀬市学童クラブ」「ウクレレ教室」など多岐にわたって活躍されています。校友会では「ホームページ」の管理運営を担当しております。



どんぐり工作奮闘中



エッセイふるさとシリーズ ⑭

我が故郷―静岡県浜松市

清水 計明 (昭53商)

私の出身地は静岡県引佐郡三ヶ日町 (現在の浜松市北区) です。実家は浜名湖の北部、奥浜名湖地域で育ちました。当時はみかんと稲作の農家でした。現在は、八才年上の兄がみかん作りをしています。

私は中学校まで実家におり、高校は県立浜松西高等学校に進学しました。野球をやりながら実家から通うのが困難なため、浜松市内の野球部のOBの家に「下宿人」というより「居候」としてお世話になり通学しました。

まったく知らない赤の他人を引き受けて頂き、食事、洗濯、弁当作り等、全て家族同様に接してくれまして、五十年経った今でも感謝の気持ちは忘れていません。この経験は一生大事にしたいと思っています。

野球部では、一年生は授業前と昼休みに二回グラウンド整備があり、早弁の毎日で当初はクラス内では怪しい目で見られていました。

また、練習で糸の解れた硬球を持ち帰り、縫い直して翌日持参するのも日課でした。今とは違い練習中は水も飲めないで、顔を洗う振りをして飲んだりしたものでした。

ポジションは、中学時代からピッチャーで高校時代も三年間やり、夏の県大会は、一年生時は補欠で決勝まで、二年生時は主戦でベストエイト、三年生時はシード権持ちながら二回戦と尻窄みな戦績でした。

当時の高校野球は問答無用の縦社会で、やらされていた感が強く、自主性が育たなかったのではないかと思います。最近の高校野球では、監督が何でも決めるので

はなく、ノーサイン野球や、練習内容等自分たちで決めてやるから自主性や生活力が養われていくと考える監督が出てきています。選手たちが自分で考える野球は、楽しみながら、強くなっていく。そのような環境の中で野球をしていくと勝利至上主義から成長至上主義に変化して、本来の野球の精神が培われていくのではないかな、と思ったりしています。



後列右から3番目が清水さん



現在も選抜野球で活躍中背番号「26」



サウスポー！

フォト・エッセイシリーズ ⑫

第十三回清瀬ひまわりフェスティバル

粕川 偉三男 (昭48政経)



第十三回清瀬ひまわりフェスティバルが七月二十二日〜三十日の九日間、四年ぶりに開催されました。

今年は事前予約が必要でしたが、「都内最大級十万本のひまわり畑」のキャッチフレーズで大勢の方が来場されていまし

た。炎天下にも拘わらず無料シャトルバスの発着所には大勢の方が並んでおり、会場ではかき氷が飛ぶように売られていました。

あの夏 ふたたび！



【特別寄稿】

大橋治三先生のこと (1)

佐藤 房夫(昭39工)

ここで重森三玲氏と大橋氏について記したい。重森三玲氏は昭和を代表する日本庭園史研究の先駆者であり作家であった。昭和初期に全国五百箇所の庭園を調査、実測して昭和十四年「日本庭園図鑑」第二十六巻を刊行し、庭園史研究の礎を築いた。この時の写真は自ら撮ったもので組立暗箱によるガラス乾板のものであった。昭和三十年代に入り重森氏はその後の調査、研究を基に再び本の出版を企画していた。当時重森氏は作庭と著述に多忙をきわめ、自分の意に沿った庭園写真を撮る人間を探して大橋氏に遭遇した。

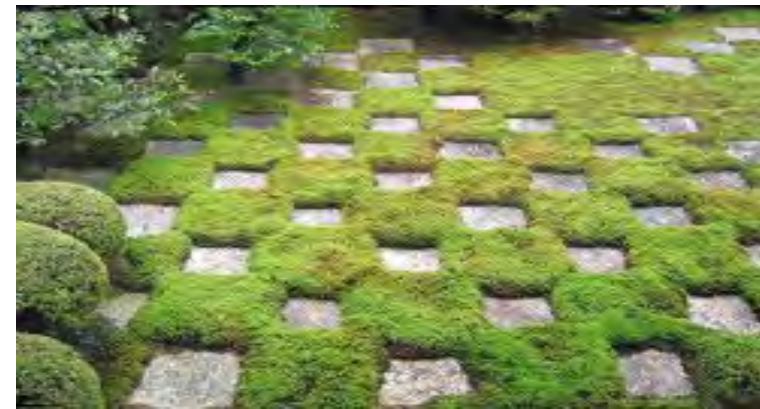
彼は重森氏の依頼と指導を受けて各地の古庭園の写真を撮った。当初は撮った写真は重森氏から度々突き返された。多分各時代の庭園の様式や技法が写真によって正確に捉えられなかったからであろう。それまで大橋氏は庭園など何の興味も覚えず、日本の伝統芸術に関心を抱くこともなかった筈である。写真家として芸術的な感覚で撮った写真と一方学術的に被写体を史実に再現して撮る写真とは相反するものがあった。重森氏は美しく咲きほこる花も、風にそよぐ樹影といった情緒はすべて排除し、数百年の歳月を経て現存する姿形の本質を求めたの



日本庭園史大系



大橋治三著



方丈庭園・北庭



松尾大社庭園

である。大橋氏は写真家として「大橋治三の庭園写真」という思いを断ち切るのには相当の苦悩があった筈である。彼は生活のためもあり、庭園について懸命に勉強した。日本庭園の各時代の様式は地割りと石組の技法によって決定される。とくに石垣は庭園の最も重要な構成要素であり、庭の生命をこの石垣のなかから見出し、石と対話しながらフレームいっぱい庭園を撮った。昭和五十一年重森三玲・完途共著「日本庭園史大系」全三十五巻が刊行された。各時代の歴史的背景から生まれた日本庭園の様式、技法と残された三百庭余の各古庭園の歴史と鑑賞を詳述したもので、重森氏は庭園研究家

として多大な功績を残したのである。その全集のすべての庭園写真は大橋氏が撮った作品であった。これにより「日本庭園写真家・大橋治三」も脚光を浴びることになった。その後、観光ブームと日本庭園ブームが沸き起こり、各雑誌はこぞって日本庭園の特集記事を書いた。これらに掲載された写真は大橋治三の写真であった。また観光地や神社のパンフレット等の庭園写真も彼の写真であった。重森・大橋氏の共著や大橋自身でも庭園に関する本を多数出版した。インターネットで「大橋治三」を検索すると出版した庭園本が多数出てくる。

重森三玲氏は作庭家としても名園を各地に残している。重森が作庭した庭は、力強い石組とモダンな苔の地割りで構成される枯山水庭園が特徴である。代表作として東福寺の方丈庭園、光明院庭園、瑞峯院庭園、松尾大社庭園などがある。皆さんも京都の東福寺の庭を一度は目にされたはずです。私も東福寺方丈庭園・北庭の苔の中に市松模様配置した石は印象に残っています。

引用文献 重森三玲「汗の出る写真」(往時遊記)より 大橋治三「あじかきにかえて」(往時遊記)より

## 第十五回石田波郷俳句大会に向けて

柗谷 榮吾（昭46法）

二〇〇九年に石田波郷没後四〇年を記念してスタートした石田波郷俳句大会は、今年記念すべき第十五回の大会となります。現在、主催者である「清瀬市石田波郷俳句大会実行委員会」では、川戸淳一郎会長、校友の大山恭子副会長のもと大会の成功に向けて準備を進めています。

大会は、昨年から一般の部を休止し、ジュニアの部と新人賞の部について募集し表彰を行うことになりました。現在選者の皆さんの審査が行われている状況です。

我が校友会は、大山恭子さんが副会長やジュニアの部の選者を務めるほか、今年も選者の審査に資する俳句応募のパソコン入力作業に中村さん、佐藤さん、柗谷が協力しています。また、例年実施している市内小中学校の俳句出前授業は、今年も五月下旬から七月末まで二か月間行われ、猛暑の中サポーターとして穴田さん、粕川さん、杉山さん、中村さん、柗谷が授業に協力しました。サポーターのほぼ半数を我が校友が占め、この俳句出前授業に大きく貢献していると思います。

今年の第十五回大会の表彰式は、以下のとおり開催されます。

開催日時 十一月二十六日（日）

午前十時 ジュニアの部の表彰式

午後一時半 講演と新人賞の部の表彰式

開催場所 アミューホール

講演は、新人賞の選者である佐藤郁良氏（俳句同人誌「群青」代表）が行います。句作の参考になる講演になると思いますので、校友の皆さんもぜひ参加して「聴講



ください。

また、当日の運営には例年どおり我が校友会に対し協力のあると思いますので、「協力」をよろしくお願ひします。



石田波郷



読売新聞に掲載された第7回の記事

### 「将来の新人賞を目指す、俳句出前授業」

中村 曠（昭36政経）

生徒「これから二時限の授業をはじめます！よろしくお願ひします！」

俳句講師「俳句と一緒に勉強する〇〇です！」

サポーター「サポーターの〇〇です！よろしくお願ひします！」

筆者がサポーターとしてある小学校の出前授業に参加したときの様子です。



「出前授業」は俳句指導など経験豊かな講師四名と俳句サークルで俳句を学んでいる一般市民がサポーターとして参加しています。

まず、俳句講師が俳句の基本の十七音（五・七・五）の詩であること、そして季語が入ることなどを説明した後、俳句実作に進みます。

ここからがサポーターの出番です。生徒の輪の中に入り、声を掛けたり質問を受けたりして俳句を作りあげていきます。出来上がった俳句を講師が詠みあげると生徒から拍手喝采が上がります。小学校、中学校、学年により講師の指導方法も変わり、生徒の反応も変わります。

サポーターにとっては感性豊かな生徒さんの俳句に触れ刺激になり、自分の俳句の勉強にもなっています。

「俳句出前授業」は、「石田波郷俳句大会」の発足時から「ジュニア部門」振興の一環として始まりました。

現在、市内の小中学校と離島の神津島の小学校で五月下旬から七月末まで実施されています。

紫紺句会からは俳句講師に大山恭子（俳号 細見道子）さん（昭45文）、サポーターに五名の校友が参加しています。

「先生！ズッキーニの季語は夏ですか？」

「先生！この季語で俳句を作りたいの！」

などマゴマゴすることも多々ありますが、約一時間の授業を終えホットする一面、充実感でいっぱい。別れには生徒から声を掛けられ、ハイタッチ、元気をもらっての帰宅です。

石田波郷俳句大会は「ジュニア部門」のほか、俳句の芥川賞と評されている「新人賞」があります。将来、出前授業を受けた生徒から「石田波郷俳句大会新人賞」の誕生も夢ではありません。

来る十一月二十六日にアミューホールで「新人賞」「ジュニア部門」の表彰式が行われます。校友会では「石田波郷俳句大会」の支援を地域社会に貢献する活動として、大会運営に積極的に協力、実行委員会副会長に大山恭子さん、実行委員に柗谷榮吾さん（昭46法）、関根文子さん（平4短法）が参加しています。

三年間に及んだコロナ禍は、今年の五月八日に二類相当感染症から季節性インフルエンザと同じ五類感染症に移行しました。未だコロナ禍の収束とはいきませんが漸く以前の日常の生活が戻ってきたように思います。

そんな中で紫紺句会は八月を除き毎月開催しています。上半期の特筆することは、大山恭子(俳号細見道子)先生の入院により四月から六月までの句会が先生不在で開催されたことです。会員の合評句会として開催しましたが、句会の発足以来九年間の経験を生かし、みんなで協力して先生不在の句会を乗り切ることができました。

なお、先生は無事退院し七月の第九十五回句会から復帰し元気に指導していただいております。

明治大学校友会清瀬地域支部のホームページには、句会の特選句と入選句がほぼ毎月更新して掲載されていますので、ぜひご覧ください。

現在の会員は十四名、句会はいつも十人前後の参加者によって開催できています。また句会後の反省会兼懇親会も復活して楽しんでます。これからも会員のみんなで紫紺句会を楽しく続けていきたいと思えます。



奥の細道

【紫紺俳壇】

紫紺句会指導

俳句結社「隗」

主宰 細見 道子



紫紺句会

三十一

ゆらめきて絵硝子となる窓若葉

熱帯夜怨嗟を刻む温度計

躓きて妻に凭るる螢狩り

黒光る監督の叫び天をつく

子らは今雨漏り知らず梅雨に入る

共白髪互ひにチェック夏マスク

炎天下老い励まして庭仕事

雲の峰寝入る赤子のゆるきグー

猛暑日の球児の顔に勇気づき

終戦を知らず鉄路に夜を明かす

風神と化す空調服夏旺ん

兄の忌や里の牛舎の草いきれ

静寂に身をゆだねたり夏の午後

糖尿の父やとらやの水羊羹

穴田 作道

粕川偉三男

粕谷彌太郎

小林 信夫

佐藤 房夫

島崎 光

杉山 陽一

中西 宣二

中村 曠

西尾 修一

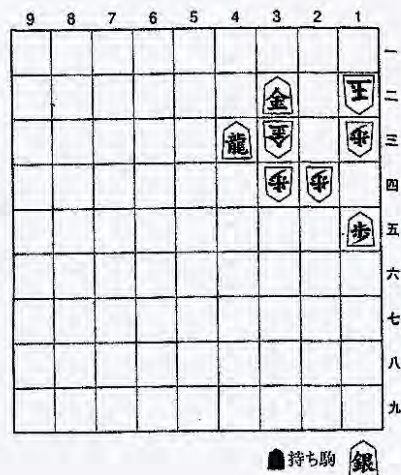
梶谷 榮吾

村野 良明

山尾久美子

チャレンジ!

詰将棋(五手詰) 解答は次頁



皆様の投稿をお待ちしております

①お孫さん自慢でも

・〇〇の全国大会に出ました

・母校明治大学に入学しました

②自身の自慢でも

・ダイエットに成功しました

・俳句が全国紙に掲載されました

・金婚式を挙げました

③旅行談義でも

・海外旅行に行ってきました

・故郷を訪問しました

などなど投稿ください。宛先は

粕川 ik4814 @jcom.home.ne.jp



明早ラグビー12月3日(日)



石田波郷俳句大会 11月26日(日)



箱根駅伝予選会 10月14日(土)



忘年会 12月10日(日)予定



多摩湖ウォーキング 11月25日(日)予定



市民文化祭 11月4日～5日(日)

**篆刻を楽しみま書**

「てんこく」は書道芸術の一分野です  
 頭と手先、フル回転の楽しみ！  
**「梅理庵篆刻教室(和田素洞)」**  
 『教室』清瀬駅南口すぐ  
 『日時』毎月中旬の水曜日午前  
 和田 寿文 (S49法)  
 bairian510195@gmail.com  
 042-495-3349  
 初心者大歓迎、  
 お気軽にお問合せを

NPO法人

**健康遊技たんぽぽ**

○健康麻雀  
 午前の部 10:00～13:00 500円  
 午後の部 13:30～16:30 500円  
 一日の部 10:00～16:30 1,000円  
 \*入会金…1,000円  
 \*年会費…2,000円  
 ☆セットのお客さま大歓迎(要予約)  
 清瀬駅南口から徒歩1分  
 清瀬市松山1-11-17 杉田ビル2階  
 ☎042-495-7708

詰将棋解答

▲二金打  
 ▲同 龍  
 ▲三銀  
 ▲同 玉  
 ▲同 金  
 ▲同 玉  
 ▲同 金  
 ▲同 玉  
 ▲同 金

◎清瀬地域支部の情報は  
 校友会清瀬のホームページ  
<https://meiji-3.jimdofree.com/>

ご意見・ご要望をお知らせく  
 ださい！皆様の会報として地域  
 の情報など、どしどしお知らせ  
 ください。  
 編集部一同  
 連絡先：粕川偉三男

POSターミナルの導入・開発支援など  
**有限会社 マイテック**  
 代表取締役 岡崎 満

**本店**  
 〒113-0033 文京区本郷2-40-7  
 YG30ビル 6F  
 Tel 03-3813-7761 Fax 03-3813-7763  
 URL <http://www.a-mytech.co.jp/>

**連絡先**  
 〒204-0022 清瀬市松山1-27-1  
 Tel 042-492-0611 Fax 042-495-8357  
 特別顧問 粕谷彌太郎  
 (S28 政経)

ポスター  
 パンフレット  
 会誌・自分誌など

環境にやさしい  
**(有)スガハラ印刷**  
 〒204-0022  
 東京都清瀬市松山 2-7-14  
 TEL 042-492-2210  
 FAX 042-491-8118  
 E-mail :  
[sugahara@sugahara-p.co.jp](mailto:sugahara@sugahara-p.co.jp)